

熊本から東京へ来た当時、僕は、故郷なんかもう捨てた、未練はないとイキがっていました。熊本へ帰る事が自分にとっての敗北だったからです。正直に言いますと、親が死んでも葬式には出ず漫画を描き続けると心に誓っていました。頑張る事はき違えた親不孝者でした。ともあれ、そんな必死な時期もあってこそ今のなので、後悔はしていないんですが。そのかわり、今持つ自分の力で親や故郷に恩を返していく事も当然の流れかと思えます。あらためて、熊本の震災で被害にあわれた方々、今なおその影響の渦中にいる方々にお見舞い申しあげると共に、今後も自分にできる最大限のメールを送り続けたいと思えます。

本日は授賞式に直接お伺いできず申し訳ありません。この度の受賞と大変光栄に思います。

2018. 4. 15

Eiichiro Oda.

